376　骨盤内リンパ節シンチグラフィの検討

吉田　宏、松尾定雄、安田鋭介、矢橋俊丈、
疋田　稔、金森勇雄、中野　哲（大垣市民病院
特放）、竹内敏視、磯貝和俊（同、泌尿器）

今回、我々は^{99m}Tc−レニウムコロイドを用いた骨盤内リンパ節シンチグラフィを直接前立腺に注入する前立腺刺入法（n＝14）ならびに坐骨直腸窩刺入法（n＝39）計53例に試み、若干の知見を得たので報告する。(1)骨盤内リンパ節の描出は、前立腺刺入法、坐骨直腸窩刺入法において差はなく同程度であった。(2)本法による骨盤内リンパ節の描出は、対照とした前立腺肥大症（n＝10）において、内腸骨リンパ節、右側90％、左側80％、閉鎖リンパ節、右側10％、左側30％、仙骨前リンパ節、右側50％、正中20％、左側40％、総腸骨リンパ節、右側90％、左側70％、傍大動脈リンパ節80％であった。(3)悪性疾患（前立腺癌15例、膀胱癌6例、腎癌3例、睾丸癌4例、子宮癌7例）における内腸骨リンパ節の描出率は病期の進行に伴い低く、片側のみ或いは描出不能例が増加した。(4)本法による重篤な副作用は認められなかった。　以上、本法は特に坐骨直腸窩刺入法において手技が簡便かつ安全であり、lymphographyのような明瞭な画像は得られないものの骨盤内悪性腫瘍症例における所属リンパ節への転移の有無を知る指標の一助となり得るものと思われた。

377　子宮頸癌におけるリンパ節シンチグラフィの臨床的意義

熊野町子、中川賢一、藤井広一、園部朋子、
石田　修（近畿大　放）坂下太郎、宮越敬三、
黒田晃代（近畿大　中放）手島研作、塩田　充
（近畿大　産婦）梶田明義（大阪成人病セ　放）

^{99m}Tc−Re−colloidによるリンパ節シンチグラフィを行い、子宮頸癌の術前病巣の進展を把握するために、その臨床的有用性を検討した。

リンパ節シンチグラフィを施行した子宮頸癌90例のうち、広汎子宮全摘及びリンパ節郭清術が施行された29例を対象とし、リンパ節への転移の有無を病理組織所見と比較した。^{99m}Tc−Re−colloid 3mCiを第一・第二趾間足背皮下に局注し、1.5時間後に腸骨リンパ節と大動脈傍リンパ節をシンチカメラにて撮像した。

リンパ節シンチグラフィによる腸骨リンパ節のsensitivityは95％、specificityは79％、大動脈傍リンパ節のsensitivityは100％、specificityは76％であり、Accuracyは80％であった。

本検査はfalse positiveが高い傾向がある。この原因としては、リンパ節の炎症、過形成並びに線維化等が考えられる。

Presented by Medical*Online